AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究集録 (2013.03) 平成23年度:74-79.

肩腱板縫合術後患者の安全なシャワー浴方法の検討
～シャワー浴用肩装具作成を通して～

一坊寺歩美、白川裕美、貝谷沙織、久保千夏

肩腱板縫合術後患者の安全なシャワー浴方法の検討
～シャワー浴用肩装具作成を通して～

８階西ナースステーション　　○一坊寺　歩美、白川　裕美、貝谷　沙織、久保　千夏

キーワード：安全・シャワー浴用肩装具・オリエンテーション

はじめに

肩腱板縫合術を受ける患者は、再断裂を予防するため、肩関節の伸展・内転等の肢位や自動運動を制限（以下肩の安静制限）する肩装具を術後約６週間装着している.患者からはシャワー浴時に、「看護師によって方法が違うから不安。」という声が聞かれた。

また、今までの援助方法では、患者自身が体を動かすことにより、肩の安静制限を守れないという現状がある。先行研究では、「シャワー浴用の肩装具（以下肩装具）を作成し装具装着の手順・使用方法の統一化により安全性が高まり、患者自身でできることが増加し、安全・安楽なシャワー浴が提供できた」[1]と述べている。そこで、独自の肩装具を作成し、シャワー浴方法を統一化することで、安全なシャワー浴方法が示唆されたため報告する。

Ⅰ．研究目的

肩腱板縫合術後患者用の肩装具を作成し、シャワー浴手順を統一化することで、安全なシャワー浴方法を検討する。

Ⅱ．用語の定義

安全：肩の外転角度が 30°以下にならず、装具装着中に肩装具のズレ、疼痛がない状態

Ⅲ．研究方法

１．研究期間：平成 22 年４月～ 10 月

２．研究対象：肩腱板縫合術後患者４名

３．研究デザイン：事例研究

４．研究方法

１）肩装具の作成：医師の協力を得て作成する。２）シャワー浴方法の患者指導用パンフレット（以下パンフレット）を作成し、手術日までに患者へパンフレットと肩装具を用いてオリエンテーションを実施する。その際、肩の外転角度の測定を行う。３）スタッフに対しシャワー浴方法の学習会を開催する。４）術後２日目よりシャワー浴を行う。

５．データ収集方法：医師・看護師の SOAP から、オリエンテーション・シャワー浴時の反応・安全についてのデータを収集する。

６．分析方法：1）～ 4）の結果より安全なシャワー浴方法について検討する。

７．倫理的配慮：同意書を用いて研究主旨、プライバシーの保護について説明し同意を得られた患者に実施する。

Ⅳ．結果

１．肩装具の作成：２L ペットボトルを５本組み合わせ、結束バンドで４箇所固定し、肩ベルトを装着・ペットボトルの飲み口に支柱を挿入し持ち手を作成した。前腕をのせる部分には滑り止めゴムを設置した。

２．オリエンテーションの反応：パンフレットは視覚に訴えるため装具装着手順・注意点について写真を多く使用し記載したことで見やすい・わかりやすいと反応があった。装具装着練習は、全員が肩の安静制限や手順について積極的に確認し実施していた。術後のシャワー浴方法をイメージすることができ、再断裂に対する認識ができたと反応があった。

３．装具装着について：初回シャワー浴時は、看護師の装具装着に対する不慣れな様子に不安を感じていたが、学習会を開催しスタッフに繰り返し周知することにより、看護師のケアが統一され、安心するようになった。初回シャワー浴の際、装具脱着時のみに疼痛の増強がみられた。

４．安全について：肩の外転角度は 50°が２名、55°が２名であった。全員が、滑り止めゴムにより腕が滑り落ちることはなく、洗身や立位の際に装具のズレはなかった。３名が装具に持ち手が付いているため安定感があると表出、装具装着中の不安の訴えはなかった。肩装具の破損・再断裂はなかった。

Ⅴ．考察

五十嵐らは、「装具の受け入れを高めるために術前オリエンテーションを実施する必要がある」[2]と述べており、本研究でもオリエンテーションを行うことで、シャ

ワー浴のイメージ化につながった。さらに、患者自身の肩の安静制限の認識を向上し、再断裂や肩の安静制限に注意してシャワー浴を実施する事につながったと考える。また、看護師が肩装具の使用方法の知識を共有することは手順の統一化につながり、装具装着時の肩の安静制限を保持することができ、患者の安心感につながったと考える。創痛は一般的に 24 時間以内が強く、以後 2 ～ 3 日で緩和すると言われており、本研究でも術後の経過と共に創痛は緩和した。看護師の援助技術の向上に伴い疼痛の増強はなくシャワー浴が行えたと考える。肩の外転角度が 30°以下になると縫合した腱板に負担がかかり再断裂の危険性が高くなるが、肩装具は外転角度を保持し、滑り止めや持ち手を設置することで安定感があり、耐久性もあり安全であったと考える。

Ⅵ．結論

1．オリエンテーションの実施は、シャワー浴のイメージ化や肩の安静制限の認識向上につながった。

2．装具装着手順を統一化することで、肩の安静制限を保持することができ、患者に安心感を与えた。

3．肩装具は、安全であった。

引用・参考文献

1）花島毅、他：シャワー浴用肩外転装具の製作第 13 回日本義肢装具士協会研究会大阪大会講演集、p176 － 177，2006.

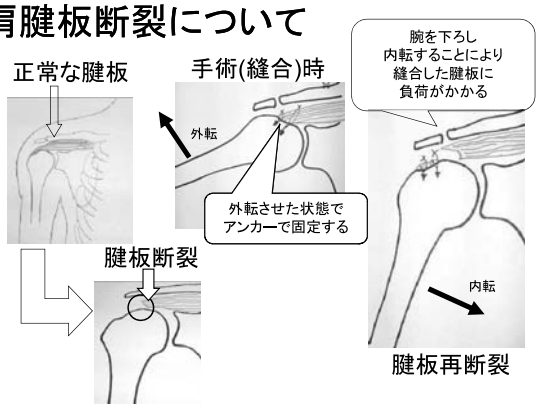
2）五十嵐千穂：肩腱板断裂術後のシャワー浴時における浴用装具の改良と評価、日本農村医学会雑誌 56 巻 3 号、p407，2007.9

肩腱板縫合術後患者の
安全なシャワー浴方法の検討

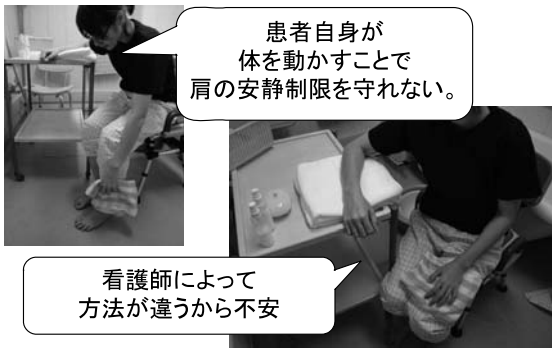
～シャワー浴用肩装具作成を通して～

旭川医科大学病院
8階西ナースステーション
一坊寺　歩美・白川裕美・貝谷沙織・井戸川みどり・久保千夏

肩腱板断裂について



従来のシャワー浴方法



Ⅰ．研究目的

肩腱板縫合術後のシャワー浴用肩装具の
作成や手順の統一化を通し，
安全なシャワー浴方法を検討する

Ⅱ．安全の定義

肩の外転角度が30°以下にならず、
シャワー浴中に肩装具のズレ、
疼痛がない状態

Ⅲ．研究方法

研究期間：平成22年4月～10月
研究対象：肩腱板縫合術後患者4名

1. 肩装具の作成
2. シャワー浴方法の患者指導用パンフレットの作成
   手術日までにパンフレットと肩装具を用いた
   オリエンテーションの実施
   外転角度の測定を実施
3. スタッフに対して、学習会を開催
4. 術後2日目よりシャワー浴を開始
   シャワー浴時の様子を観察する

Ⅲ. 研究方法

研究期間：平成22年4月～10月
研究対象：肩腱板縫合術後患者4名

1. 肩装具の作成
2. シャワー浴方法の患者指導用パンフレットの作成
   手術日までにパンフレットと肩装具を用いた
   オリエンテーションの実施
   外転角度の測定を実施
3. スタッフに対して、学習会を開催
4. 術後2日目よりシャワー浴を開始
   シャワー浴時の様子を観察する

Ⅲ. 研究方法

研究期間：平成22年4月～10月
研究対象：肩腱板縫合術後患者4名

1. 肩装具の作成
2. シャワー浴方法の患者指導用パンフレットの作成
   手術日までにパンフレットと肩装具を用いた
   オリエンテーションの実施
   外転角度の測定を実施
3. スタッフに対して、学習会を開催
4. 術後2日目よりシャワー浴を開始
   シャワー浴時の様子を観察する

Ⅲ. 研究方法

研究期間：平成22年4月～10月
研究対象：肩腱板縫合術後患者4名

1. 肩装具の作成
2. シャワー浴方法の患者指導用パンフレットの作成
   手術日までにパンフレットと肩装具を用いた
   オリエンテーションの実施
   外転角度の測定を実施
3. スタッフに対して、学習会を開催
4. 術後2日目よりシャワー浴を開始
   シャワー浴時の様子を観察する

Ⅲ. 研究方法

データの収集方法：
入院日から退院日までの医師・看護師の記録
(SOAP)より以下の点についての情報を収集する。
①シャワー浴用肩装具の安全性・使用感・外転角度
②術前オリエンテーション時の様子
③シャワー浴時の様子
④看護師の介助に関して記載された内容

分析方法：
①～④の結果により安全なシャワー浴方法について検討する

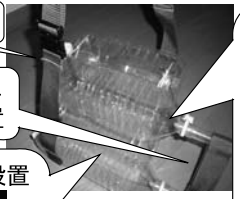
倫理的配慮

同意書を用いて研究の趣旨、プライバシーの保護について説明し同意を得られた患者に実施する

Ⅳ. 結果　－属性－

	A氏	B氏	C氏	D氏
性別	男性	男性	女性	男性
年齢	68歳	68歳	69歳	69歳

ー肩装具の作成ー



肩ﾍﾞﾙﾄ装着

支柱を挿入し
持ち手の設置

滑り止めの設置

2Lﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙを
5本使用し

結束ﾊﾞﾝﾄﾞで
4箇所固定する

ー安全についてー

持ち手
安定感がある（3名）

滑り止め
腕が滑り落ちることはなし
洗身や立位の際にもずれなし

外転角度
50°:2名・55°:2名

肩装具の破損なし

装具装着中の
不安の訴えはなし

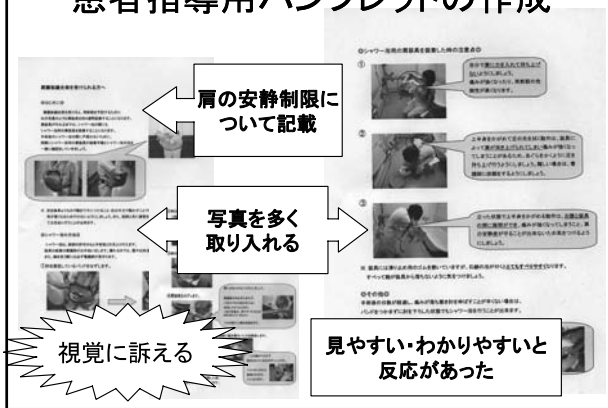
ー術前オリエンテーションの反応ー

全員が肩の安静制限や肩装具の装着手順を
積極的に確認し練習を行う

術後のシャワー浴を
イメージできた

再断裂の危険性を
認識できた

ー患者指導用パンフレットの作成ー



肩の安静制限に
ついて記載

写真を多く
取り入れる

視覚に訴える

見やすい・わかりやすいと
反応があった

ー術後日数と
シャワー浴時の様子ー

洗身の背部･患肢以外はほぼ自己にて
実施することが出来ている

術後2日目のシャワー浴時
装具脱着時に疼痛の増強あり（3名）
装具装着後は疼痛なし（4名）

装具脱着時・装具装着後も疼痛なし
（術後6日目1名・術後8日目1名・10日目2名）
装具をつけてのシャワー浴に不安はない(4名)

ー装具装着についてー

初回シャワー浴時
看護師の装具装着に対する不慣れな様子に
不安あり

学習会を開催しスタッフへ
繰り返し周知を実施

看護師のケアが統一し
安心へ繋がった

Ⅴ. 考察
－術前オリエンテーションの効果－

術前オリエンテーション

シャワー浴の
イメージ化に繋がった

肩の安静制限の
認識向上

患者自身が肩の安静制限に注意して
シャワー浴を実施

－シャワー浴用肩装具の効果－

シャワー浴用肩装具は
外転角度を保持
安定感あり
耐久性があった

疼痛の増強なく
シャワー浴を実施

シャワー浴用ツールとして有効である

看護師が肩装具の
使用方法の知識を共有する

装具装着手順の統一化
患者の安心感へ繋がった

肩腱板縫合術後の安全なシャワー浴は
確実に外転位を保持する方法と
術前から使用する道具を用いたシミュレーションや
知識の提供が重要である

Ⅵ. 結論

1. 作成したシャワー浴用肩装具は外転位を保持し
   耐久性と装着した際の安定感があり安全であった。

2. 術前オリエンテーションの実施は、シャワー浴の
   イメージ化や肩の安静制限の認識向上に繋がった。

3. シャワー浴時の装具装着手順の統一化することで、
   患者の安心感が得られた。